

### (3) テーマ2 職業に関する体験活動の重要性

○職業に関する体験活動の実施は児童の学習意欲の向上に影響していると考えられる。

- ・職業に関する体験活動や事前・事後指導を担当が積極的に推進し、児童が学習経験として認識するためには、学校のキャリア教育計画の中に位置付ける必要がある。
- ・職業に関する体験活動を重視してキャリア教育計画を作成することは、体験活動の目標の明確化につながる。さらに、適性、職業選択、働き方、生き方について学ぶことを目標として体験活動を実施することで、児童の学習意欲を向上させることができる。
- ・事前指導を通して体験の内容や活動する上でのマナーを知ることは、児童の自己理解を促進する。また、事後指導を通して体験活動の成果を共有し、今後の生き方を展望することは、学校生活に対する児童の積極性を向上させる。特に「キャリア・パスポート」を活用することで、学習意欲を伸ばすことができる。
- ・職業に関する体験活動に参加することにより、児童の基礎的・汎用的能力や学習意欲が高まる。
- ・キャリア教育計画において職業に関する体験活動を重視する学校や、2日以上職場見学を実施する学校では、教室での職業に関する調べ学習を経験している児童の割合が少ない。校外での体験活動を充実させるだけでなく、校内での学習とのバランスを取り、双方の学びをつなげていく必要がある。

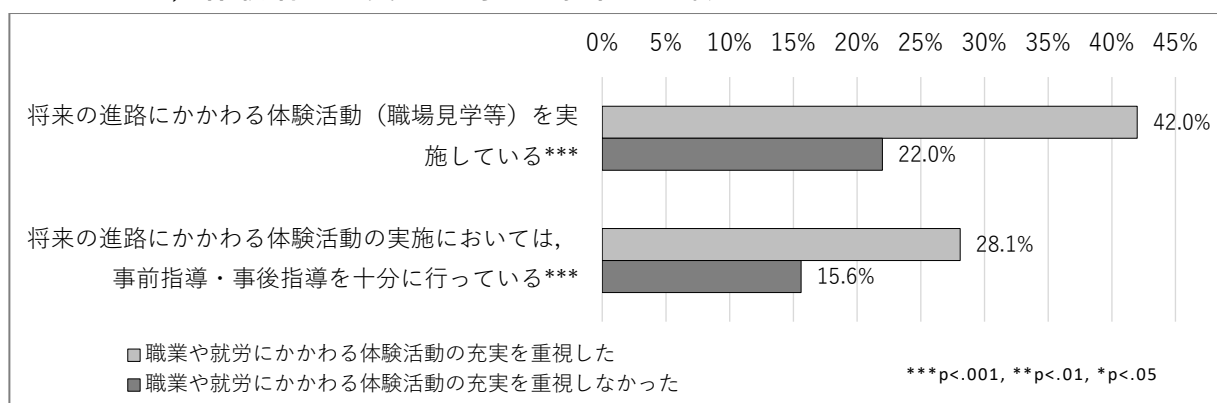
#### ①キャリア教育の計画において職業に関する体験活動を重視することの意義

キャリア教育の計画を立てる上で重視したことを尋ねた設問で<sup>\*1</sup>、「職業や就労にかかわる体験活動（職場見学等）を充実させること」を選択した学校では、実際に体験活動が提供されているのだろうか。学級あるいは学年におけるキャリア教育の計画・実施に関する現状について担任に尋ねた設問のうち<sup>\*2</sup>、体験活動に関わる2項目を比較した。その結果、重視する学校はそうでない学校に比べて、「将来の進路にかかわる体験活動（職場見学等）を実施している」は20.0ポイント、「将来の進路にかかわる体験活動の実施においては、事前指導・事後指導を十分に行っている」は12.5ポイント高い（図1）。

さらに、将来の職業について児童が学校でどのような学習活動をしたか<sup>\*3</sup>を比較したところ、重視する学校はそうでない学校に比べて、「お店や工場、農家や漁師の仕事などの職業を見学したり体験したりする活動」は8.4ポイント、「大人の人から職業についてのお話を聞いたり、質問したりする活動」は7.7ポイント、「お店や工場、農家や漁師の仕事など、いろいろな仕事を知る学習」は6.6ポイント高い（図2）。一方で、「自分になりたい職業の内容について調べる活動」は9.1ポイント、「自分にあった職業を考える学習」は7.8ポイント低い。このことは、キャリア教育に関する学習時間が有限である中で、直接的な体験活動を重視することによって、教室内での学習の機会が相

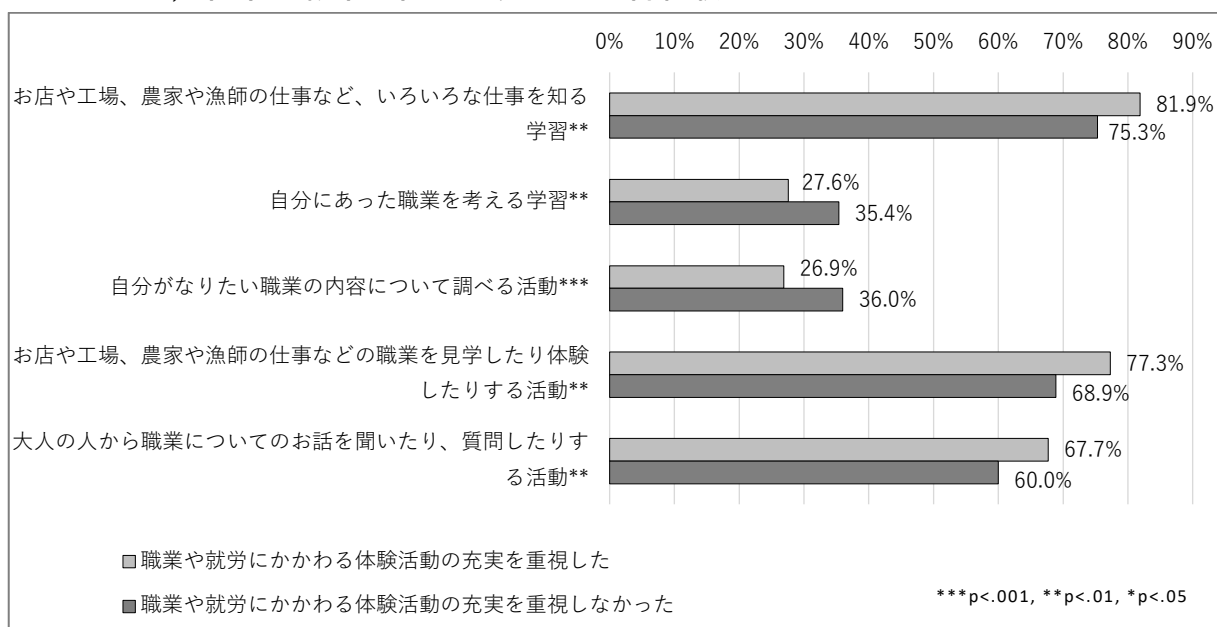
対的に少なくなってしまう可能性を示唆している。ただし、小学生段階では、職業に対する興味を広げることも重要である。体験活動を重視している学校では実感を伴った理解をさせるとともに、職業について興味・関心を高めることを大切にしており、児童の実態や発達段階に応じた活動に積極的に取り組んでいるという見方もできる。

【図1】学校のキャリア教育計画において体験活動を重視する学校と重視しない学校の別にみた、体験活動の実施に対する担任の意識



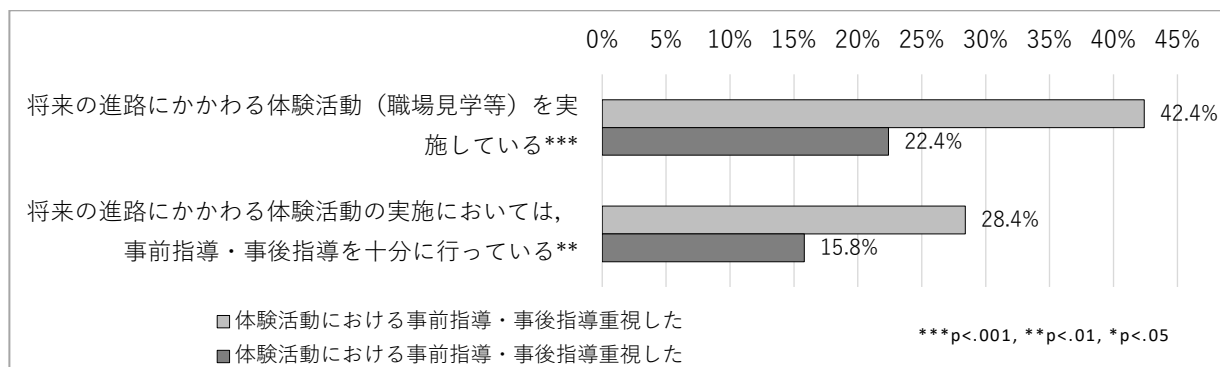
※  $\chi^2$  検定の結果、2項目全てで有意差が見られた。「将来の進路にかかわる体験活動（職場見学等）を実施している」( $\chi^2(1) = 46.294, p < .001$ )、「将来の進路にかかわる体験活動の実施においては、事前指導・事後指導を十分に行っている」( $\chi^2(1) = 23.472, p < .001$ )

【図2】学校のキャリア教育計画において体験活動を重視する学校と重視しない学校の別にみた、将来の職業に関する児童の学習経験



※  $\chi^2$  検定の結果、5項目全てで有意差が見られた。「お店や工場、農家や漁師の仕事など、いろいろな仕事を知る学習」( $\chi^2(1) = 7.984, p < .01$ )、「自分にあった職業を考える学習」( $\chi^2(1) = 8.944, p < .01$ )、「自分がなりたい職業の内容について調べる活動」( $\chi^2(1) = 12.294, p < .001$ )、「お店や工場、農家や漁師の仕事などの職業を見学したり体験したりする活動」( $\chi^2(1) = 11.025, p < .01$ )、「大人の人から職業についてのお話を聞いたり、質問したりする活動」( $\chi^2(1) = 8.224, p < .01$ )

**【図3】学校のキャリア教育計画において事前・事後指導を重視する学校と重視しない学校の別にみた、体験活動の実施に対する担任の意識**



※ $\chi^2$ 検定の結果、2項目全てで有意差が見られた。「将来の進路にかかわる体験活動（職場見学等）を実施している」( $\chi^2(1) = 41.476, p < .001$ ), 「将来の進路にかかわる体験活動の実施においては、事前指導・事後指導を十分に行っている」( $\chi^2(1) = 21.630, p < .001$ )

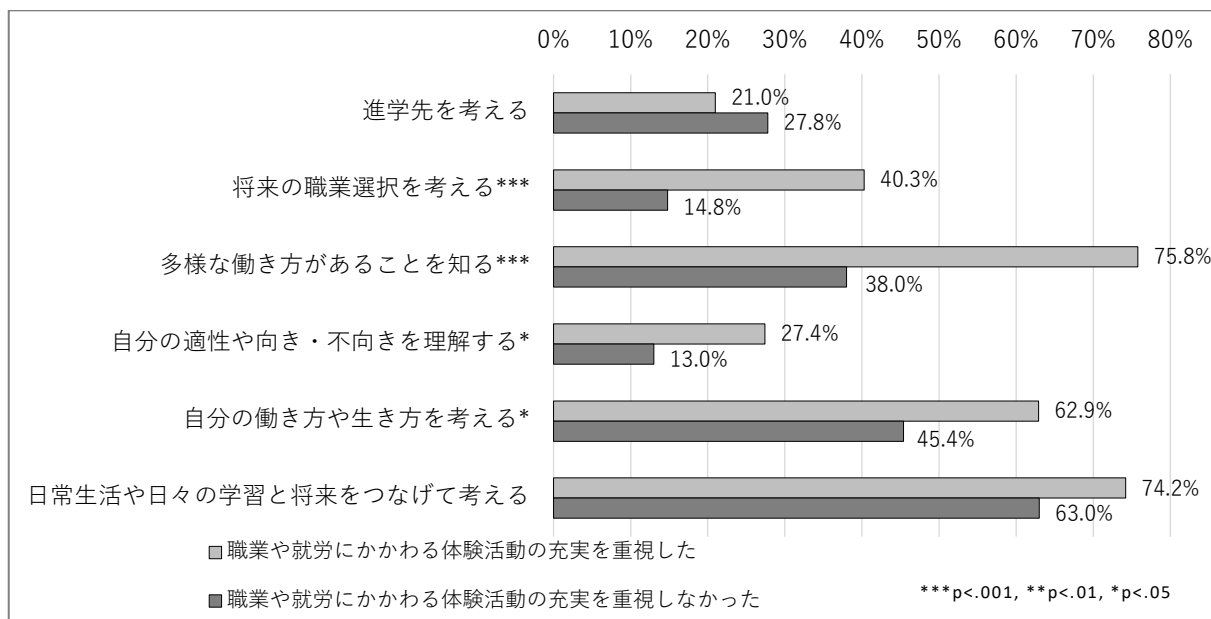
体験活動の事前指導と事後指導についても、学校の計画レベルで重視することが担任の行動の変容につながる。「職場見学や体験入学等の体験活動において、事前指導・事後指導を重視すること」を選択したかどうかによって、学級あるいは学年におけるキャリア教育の計画・実施に関する現状について担任に尋ねた設問のうち<sup>2</sup>、体験活動に関わる2項目を比較した。その結果、重視する学校はそうでない学校に比べて、「将来の進路にかかわる体験活動（職場見学等）を実施している」は20.0ポイント、「将来の進路にかかわる体験活動の実施においては、事前指導・事後指導を十分に行っている」は12.6ポイント、高い（図3）。

以上のことから、学校のキャリア教育計画の中に職業に関する体験活動や事前・事後指導を位置付けることは、担任がこれらの活動を積極的に実施することにつながり、児童もこれらの学習経験として認識できると言えよう。

## ②年間指導計画における体験活動の目標の重要性

年間指導計画に体験活動を位置付けている学校に限定して、実施する上で重視している点について尋ねた回答を<sup>4</sup>、キャリア教育計画において職業に関する体験活動を重視する学校とそうでない学校で比較した。その結果、重視する学校は体験活動の目標を明確化していることが明らかになった（図4）。特に「多様な働き方があることを知る」は37.8ポイント、「将来の職業選択を考える」は25.5ポイントの差がある。このように、キャリア教育計画の中に体験活動を位置付けることは、体験が提供されるかどうか（体験の量）にとどまらず、体験の質にも影響を与える。

【図4】学校のキャリア教育計画において体験活動を重視する学校と重視しない学校の別にみた、体験活動の実施にあたって重視した目標

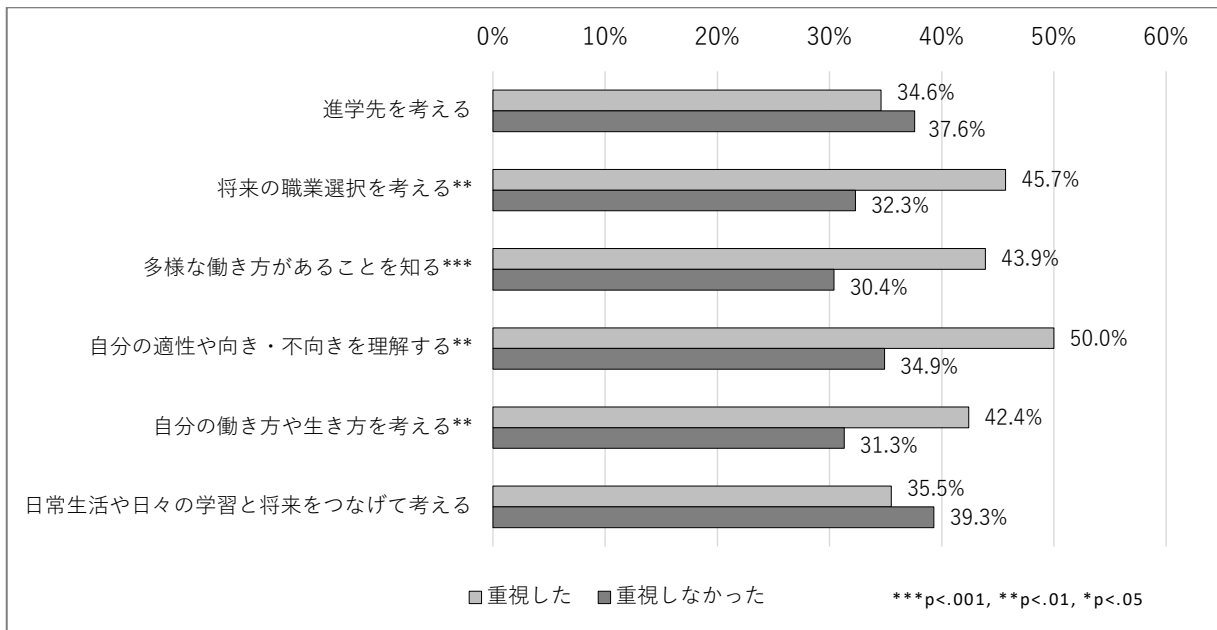


※年間指導計画に体験活動を位置付けている学校に限定した比較

※ $\chi^2$ 検定の結果、4項目で有意差が見られた。「将来の職業選択を考える」( $\chi^2(1) = 14.003, p < .001$ ), 「多様な働き方があることを知る」( $\chi^2(1) = 22.592, p < .001$ ), 「自分の適性や向き・不向きを理解する」( $\chi^2(1) = 5.521, p < .05$ ), 「自分の働き方や生き方を考える」( $\chi^2(1) = 4.849, p < .05$ )

それでは、明確な目標をもって体験活動を行うことは、児童にどのような影響を与えるであろうか。学習に対する意識を児童に尋ねた設問のうち\*5、「家での学習に積極的に取り組んでいる」に「あてはまる」と回答した児童の割合が、体験活動を実施する上で重視している点について尋ねた回答によってどう異なるか比較した。その結果、重視する学校はしない学校に比べて、4項目で高くなった。特に、「自分の適性や向き・不向きを理解する」を重視するかどうかで 15.1 ポイント、「多様な働き方があることを知る」を重視するかどうかで 13.5 ポイント、「将来の職業選択を考える」を重視するかどうかで 13.4 ポイントの差が確認される(図5)。したがって、適性、職業選択、働き方、生き方について考えるといった目標を重視して体験活動を実施することは、児童の学習意欲を向上させると考えられる。

【図5】体験活動を実施するにあたって重視した目標別にみた、「家での学習に積極的に取り組んでいる」に「あてはまる」と回答した児童の割合



※年間指導計画に体験活動を位置付けている学校の児童に限定した比較

※ $\chi^2$ 検定の結果、4項目で有意差が見られた。「将来の職業選択を考える」( $\chi^2(1) = 12.053, p < .01$ ), 「多様な働き方があることを知る」( $\chi^2(1) = 13.825, p < .001$ ), 「自分の適性や向き・不向きを理解する」( $\chi^2(1) = 7.365, p < .01$ ), 「自分の働き方や生き方を考える」( $\chi^2(1) = 9.402, p < .01$ )

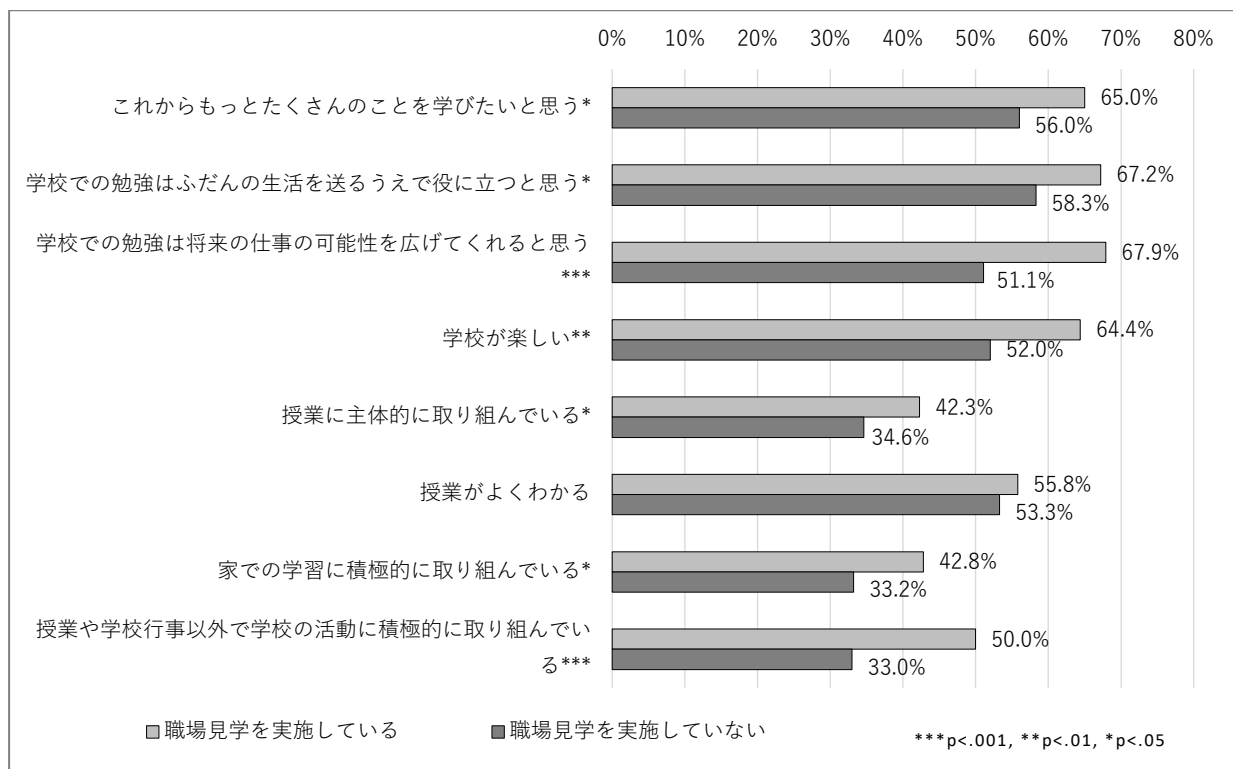
### ③学校による職場見学の実施が与える影響

学校が職場見学を実施することは、担任や児童の意識にどのような影響を与えるであろうか。

年間指導計画に体験活動を位置付けている学校のうち、職場見学を実施している学校と実施していない学校で\*6、児童の学習に対する意識を尋ねた設問\*5の回答を比較したところ、6項目について実施している学校の方が高い割合となった(図6)。特に、「授業や学校行事以外で学校の活動に積極的に取り組んでいる」は17.0ポイント、「学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれると思う」は16.8ポイント、「学校が楽しい」は12.4ポイントの差がある。したがって、児童が日常の学習に意義を見だし、主体的に学校生活を送ることと、職場見学の実施は何らかの関わりがあると考えられる。

それでは、職場見学の日数によって効果に違いは見られるだろうか。職場見学に充てる日数を尋ねた設問\*7の回答を「2日以上」と「1日」に分け、将来の職業についての学習活動を経験した児童の割合\*3を比較した(図7)。その結果、2日以上実施している学校の児童は1日に比べて、「大人の人から職業についてのお話を聞いたり、質問したりする活動」を経験した割合が24.9ポイント、「お店や工場、農家や漁師の仕事などの職業を見学したり体験したりする活動」を経験した割合が21.5ポイント、「お店や工場、農家や漁師の仕事など、いろいろな仕事を知る学習」を経験した割合が16.6

【図6】 職場見学の実施の有無別にみた学習に対する児童の意識



※年間指導計画に体験活動を位置付けている学校の児童に限定した比較

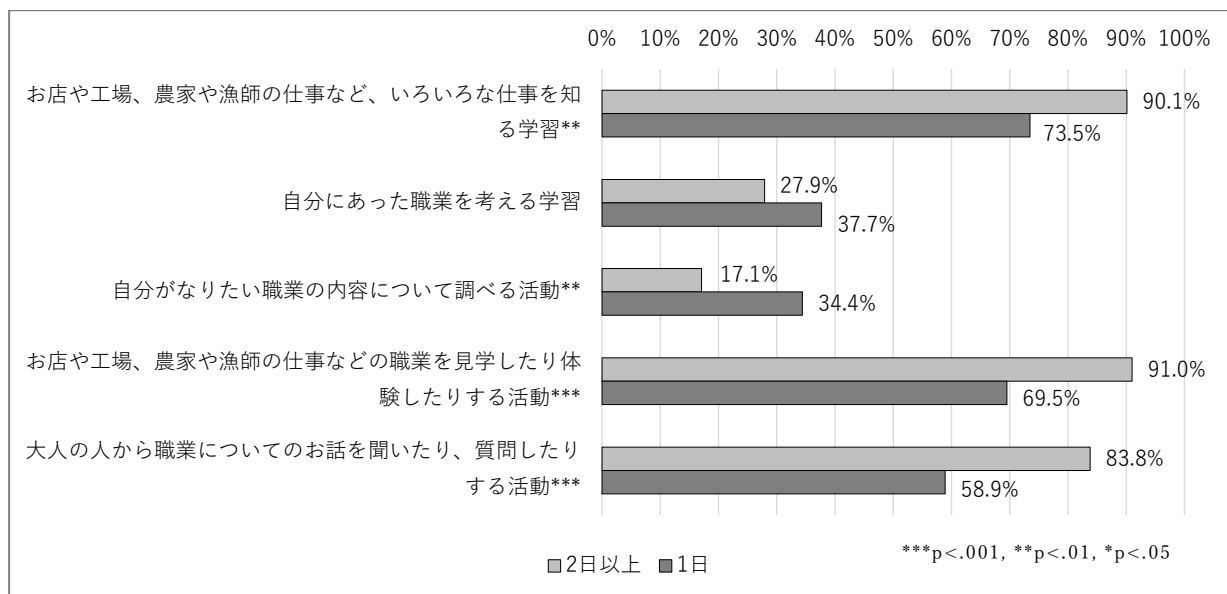
※「あてはまる」と回答した児童の割合

※ $\chi^2$ 検定の結果、6項目で有意差が見られた。「これからもっとたくさんのことを学びたいと思う」( $\chi^2(1) = 5.693, p < .05$ ), 「学校での勉強はふだんの生活を送るうえで役に立つと思う」( $\chi^2(1) = 5.480, p < .05$ ), 「学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれると思う」( $\chi^2(1) = 19.152, p < .001$ ), 「学校が楽しい」( $\chi^2(1) = 10.341, p < .01$ ), 「家での学習に積極的に取り組んでいる」( $\chi^2(1) = 6.584, p < .05$ ), 「授業や学校行事以外で学校の活動に積極的に取り組んでいる」( $\chi^2(1) = 19.985, p < .001$ )

ポイント高いことが示された。逆に、「自分がなりたい職業の内容について調べる活動」は17.3ポイント低いことから、職場見学の期間が相対的に長い学校は校内で行われる職業理解よりも、校外で行われる体験活動を通じた職業理解を優先する傾向にあると言えよう。ただし、先述のように職業に対する興味を広げるために、児童の実態に応じた活動に積極的に取り組んでいるという解釈もできる。

また、職場見学の日数に応じて、学級や学年の児童や保護者におけるキャリア教育の計画・実施に対する担任の意識\*<sup>8</sup>を比べたところ、2日以上実施している学校の児童は1日に比べて、「児童はキャリア教育に関する学習や活動に積極的に取り組んでいる」の割合が19.7ポイント、「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して、社会的・職業的自立に向けて本校で育成したい力を身に付けてきている」の割合が15.4ポイント高い(図8)。このように、2日以上職場見学を実施する学校では、担任が児童の学習意欲や基礎的・汎用的能力の向上を実感している。まとまった時間数が確保されることで、職場見学がより充実したものになる傾向が確認できた。

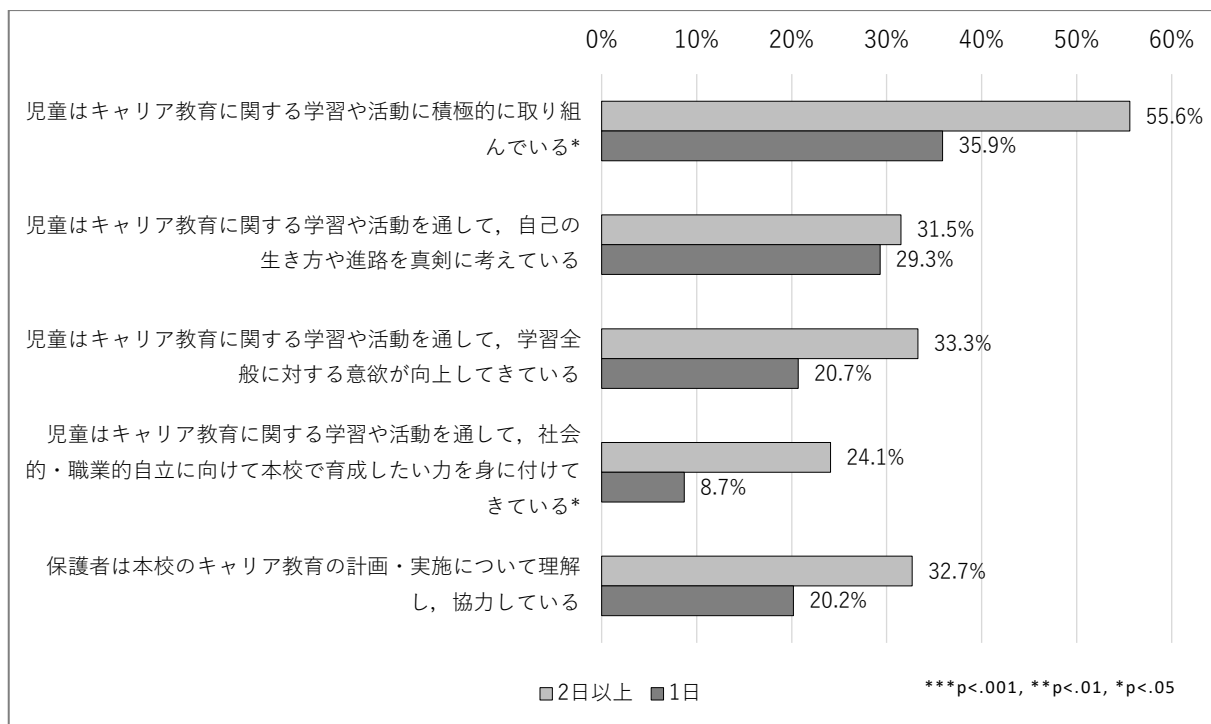
【図7】 職場見学に充てる日数別にみた、将来の職業に関する児童の学習経験



※年間指導計画に体験活動を位置付けている学校の児童に限定した比較

※ $\chi^2$ 検定の結果、4項目で有意差が見られた。「お店や工場、農家や漁師の仕事など、いろいろな仕事を知る学習」( $\chi^2(1) = 11.218, p < .01$ ), 「自分がなりたい職業の内容について調べる活動」( $\chi^2(1) = 9.714, p < .01$ ), 「お店や工場、農家や漁師の仕事などの職業を見学したり体験したりする活動」( $\chi^2(1) = 17.522, p < .001$ ), 「大人の人から職業についてのお話を聞いたり、質問したりする活動」( $\chi^2(1) = 16.615, p < .001$ )

【図8】 職場見学に充てる日数別にみた、児童や保護者のキャリア教育に関する現状に対する担任の意識



※年間指導計画に体験活動を位置付けている学校の児童に限定した比較

※ $\chi^2$ 検定の結果、2項目で有意差が見られた。「児童はキャリア教育に関する学習や活動に積極的に取り組んでいる」( $\chi^2(1) = 5.376, p < .05$ ), 「児童はキャリア教育に関する学習や活動を通して、社会的・職業的自立に向けて本校で育成したい力を身に付けてきている」( $\chi^2(1) = 16.615, p < .001$ )

的・職業的自立に向けて本校で育成したい力を身に付けてきている」( $\chi^2(1) = 6.535, p < .05$ )

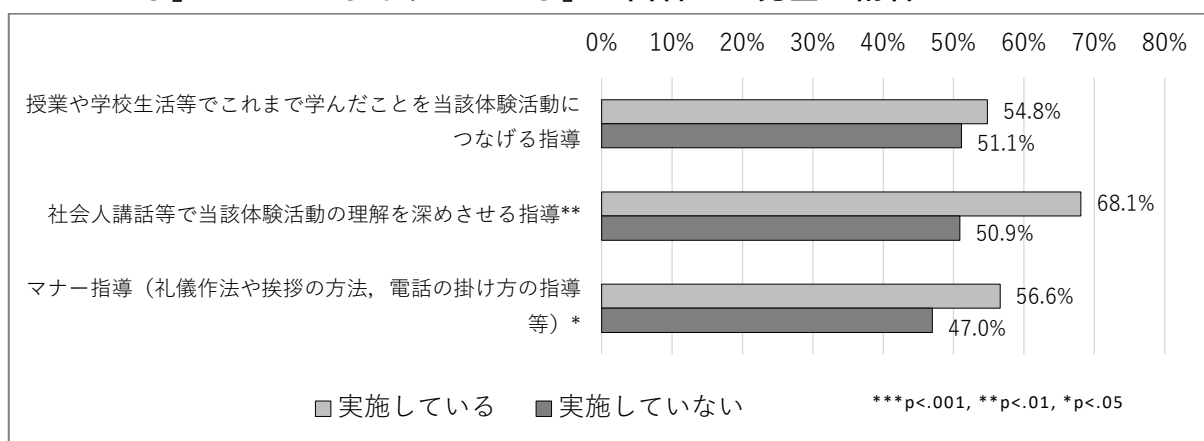
#### ④学校が行う事前・事後指導の内容が与える影響

体験活動の実施に当たって、どのような事前指導・事後指導を行うことが児童の自己理解を促進するだろうか。

事前指導を実施している学校に限定した上で、その内容を尋ねた質問の回答によって\*<sup>9</sup>、児童の学習に対する意識を尋ねた設問のうち\*<sup>10</sup>「自分の長所や短所などについて分かっている」に「いつもそうしている」と回答した児童の割合がどう異なるか分析した(図9)。ただし、「当該体験活動の目的を設定・確認させる指導」については94.0%の学校で実施しており、実施していない学校のサンプルが極めて少ないため除外した。その結果、「社会人講話等で当該体験活動の理解を深めさせる指導」を行っているかどうかで17.2ポイント、「マナー指導(礼儀作法や挨拶の方法、電話の掛け方の指導等)」を行っているかどうかで9.6ポイントの差が見られた。社会人講話等で児童が事前に活動内容を把握することによって体験がより有意義なものとなり、体験活動を通して自己理解が深まることにつながる、と解釈できる。またマナー指導については、事前活動の充実度のバロメーターの一つであり、事前指導が充実したものとなっていることが、自己理解を高めている可能性がある。

次に、事後指導を実施している学校に限定した上で、その内容を尋ねた質問の回答によって\*<sup>11</sup>、児童の学習に対する意識を尋ねた設問\*<sup>5</sup>のうち「授業や学校行事以外で学校の活動に積極的に取り組んでいる」に「あてはまる」と回答した割合がどう異なるか、分析を行った(図10)。その結果、4項目で差があり、特に『『キャリア・パスポート』等を活用して当該体験活動の経験を卒業後の進路につなげる指導』を行っているかどうかで26.6ポイント、「発表会やポスターセッションなど当該体験活動の成果を共有させる指導」を行っているかどうかで14.8ポイント、「当該体験活動の経験をこれからの生き方につなげて考えさせる指導」を行っているかどうかで12.1ポイントの差が確認された。体験活動の成果を共有し、それを今後の進路や生き方とつなげて考えさせることで、学校生活に対する児童の積極性が向上していると推察される。

【図9】学校の実施する事前指導の内容別にみた、「自分の長所や短所などについて分かっている」に「いつもそうしている」と回答した児童の割合

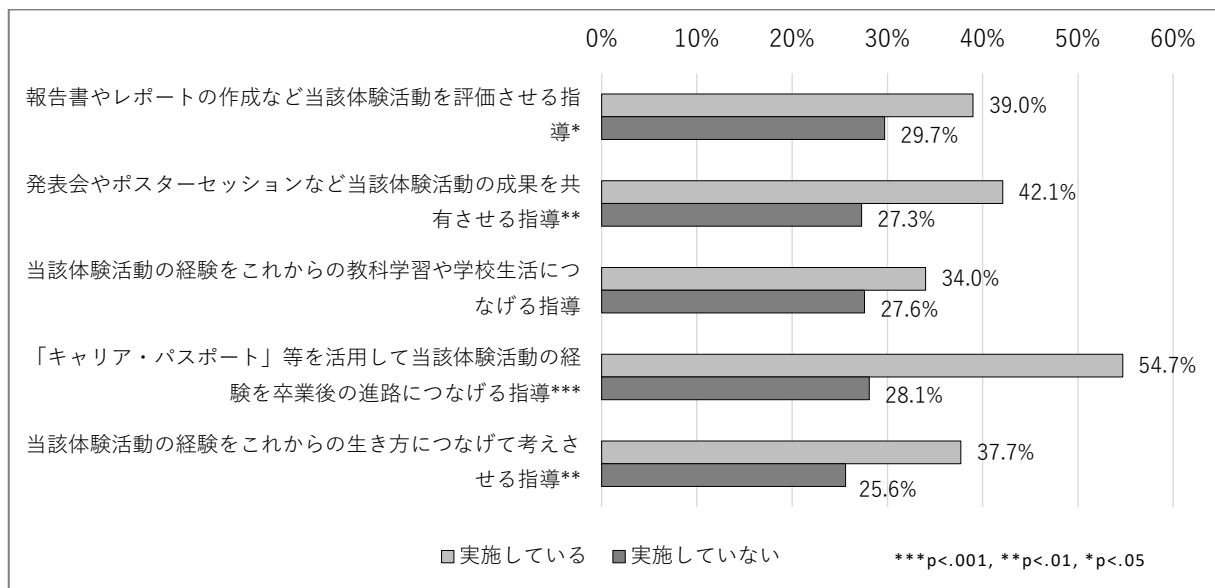




※体験活動の実践指導・事後指導を実施している学校に限定した比較

※ $\chi^2$ 検定の結果、2項目で有意差が見られた。「社会人講話等で当該体験活動の理解を深めさせる指導」( $\chi^2(1) = 7.131, p < .01$ ), 「マナー指導(礼儀作法や挨拶の方法, 電話の掛け方の指導等)」( $\chi^2(1) = 4.370, p < .05$ )

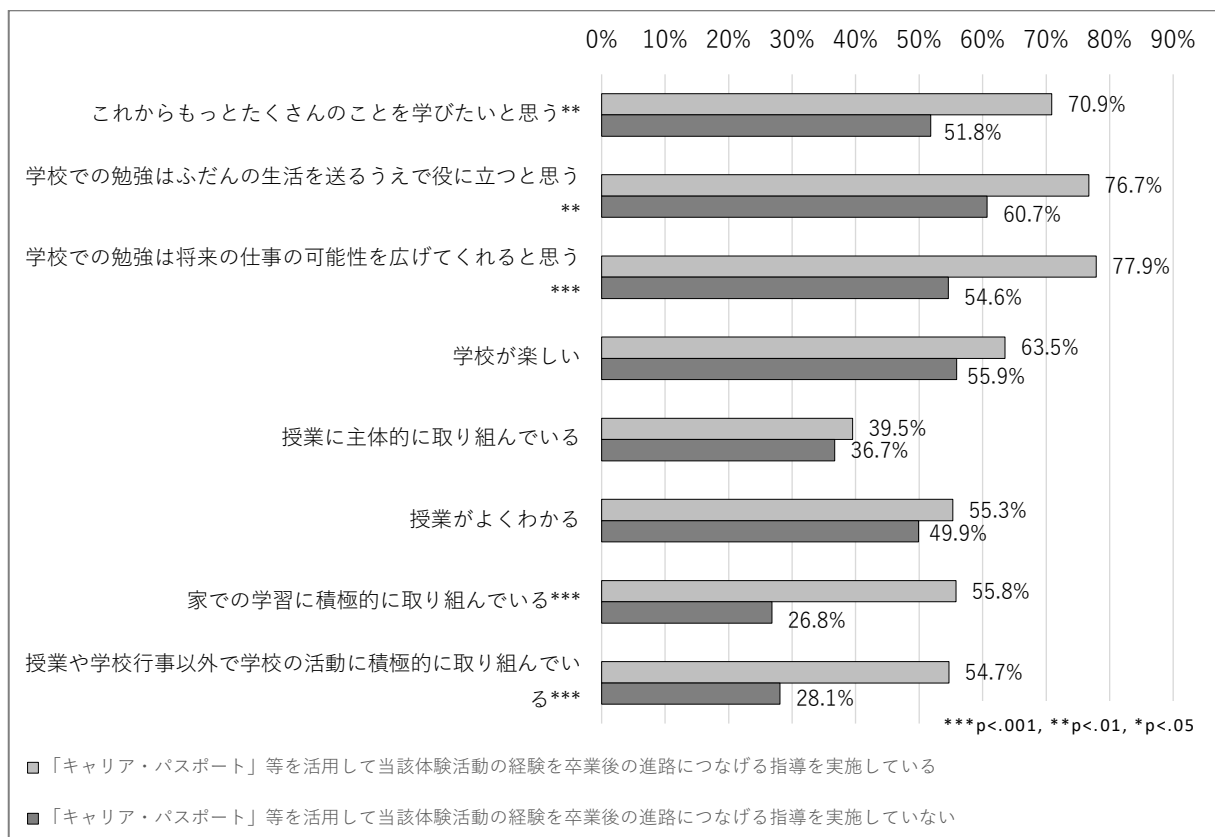
【図 10】学校の実施する事後指導の内容別にみた、「授業や学校行事以外で学校の活動に積極的に取り組んでいる」に「あてはまる」と回答した児童の割合



※ $\chi^2$ 検定の結果、4項目で有意差が見られた。「報告書やレポートの作成など当該体験活動を評価させる指導」( $\chi^2(1) = 11.700, p < .01$ ), 「発表会やポスターセッションなど当該体験活動の成果を共有させる指導」( $\chi^2(1) = 4.335, p < .05$ ), 「「キャリア・パスポート」等を活用して当該体験活動の経験を卒業後の進路につなげる指導」( $\chi^2(1) = 22.940, p < .001$ ), 「当該体験活動の経験をこれからの生き方につなげて考えさせる指導」( $\chi^2(1) = 8.460, p < .01$ )

さらに、上記の分析で最もポイント差の大きかった『「キャリア・パスポート」等を活用して当該体験活動の経験を卒業後の進路につなげる指導』の有無に絞って、学習に対する児童の意識<sup>\*5</sup>を比較した。その結果、5項目について指導している学校の児童はそうでない児童に比べて高くなり、特に「家での学習に積極的に取り組んでいる」は29.0ポイント、「学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれると思う」は23.3ポイントの差があった(図 11)。ゆえに、事後指導の中でも、「キャリア・パスポート」を活用して学習経験と進路を接続する取組は効果が高く、児童の学習意欲の向上に寄与している。

【図 11】『キャリア・パスポート』等を活用して当該体験活動の経験を卒業後の進路につなげる指導の有無別にみた、学習に対する児童の意識



※「あてはまる」と回答した割合

※ $\chi^2$ 検定の結果、5項目で有意差が見られた。「これからもっとたくさんのことを学びたいと思う」( $\chi^2(1) = 10.565, p < .01$ ), 「学校での勉強はふだんの生活を送るうえで役に立つと思う」( $\chi^2(1) = 7.920, p < .01$ ), 「学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれると思う」( $\chi^2(1) = 16.007, p < .001$ ), 「家での学習に積極的に取り組んでいる」( $\chi^2(1) = 27.864, p < .001$ ), 「授業や学校行事以外で学校の活動に積極的に取り組んでいる」( $\chi^2(1) = 22.940, p < .001$ )

## ⑤児童の職業に関する学習経験が学習意欲と基礎的・汎用的能力に与える効果

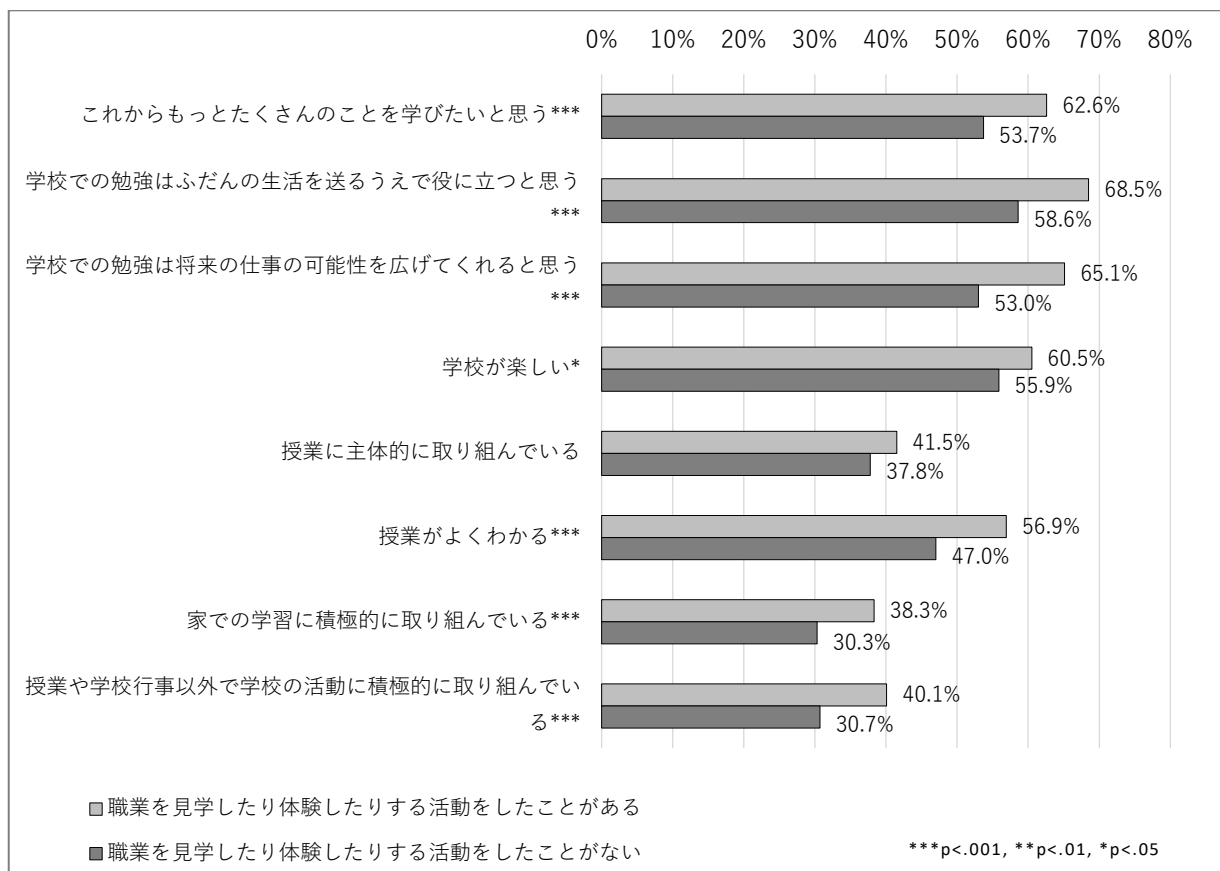
最後に、職業に関する体験活動の経験が、児童の学習意欲や基礎的・汎用的能力に影響を与えるのかどうか見てみたい。

将来の職業について学校でどのような学習活動をしたか児童に尋ねた設問に注目し\*<sup>3</sup>, 「お店や工場、農家や漁師の仕事などの職業を見学したり体験したりする活動」をしたことがあるかどうかで、児童の学習に対する意識を尋ねた設問\*<sup>5</sup>に「あてはまる」と回答した割合を比較したところ、7項目について活動したことがある児童の方が高い割合となった。特に「学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれると思う」は12.1ポイント、「学校での勉強はふだんの生活を送るうえで役に立つと思う」は9.9ポイント、「授業がよくわかる」は9.9ポイントの差がある(図12)。このように、職業に関する体験活動には、児童の学習意欲を向上させる効果がある。

さらに、児童の日常生活の様子に関する設問\*<sup>9</sup>に「いつもそうしている」と回答し

た割合を比較した。その結果，9項目について活動したことのある児童の方が高い割合となった（図13）。とりわけ，「誰かの話を聞く時は，その人の考えを受け止めようとしている」は13.4ポイント，「自分の長所や短所などについて分かっている」は8.2ポイント，「何か問題が起きた時，原因を考えて，解決するように工夫している」は7.2ポイントの差がある。したがって，児童が職業に関する体験活動に参加することによって，人間関係形成・社会形成能力，自己理解・管理能力，課題対応能力などが向上していると考えられる。

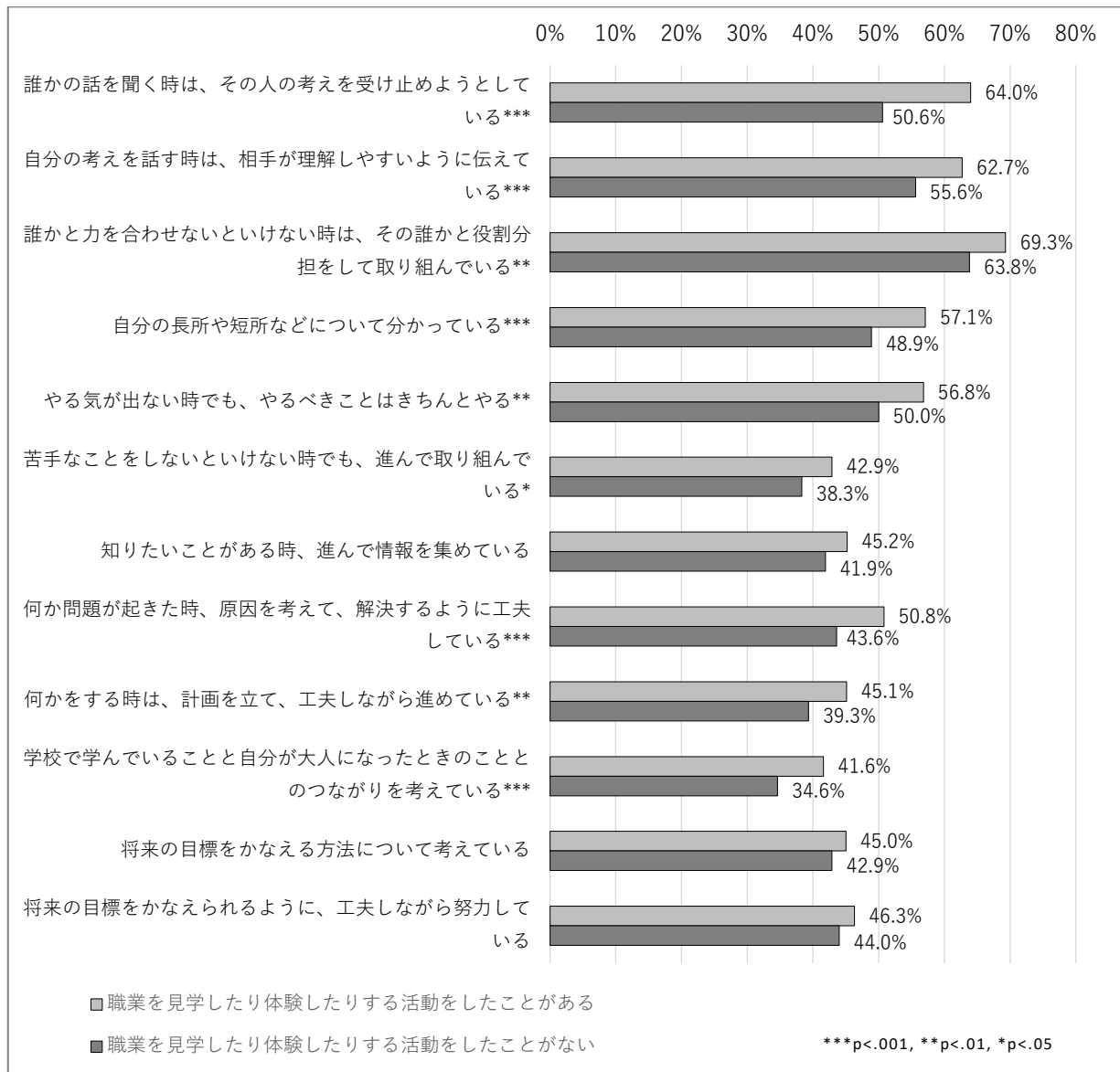
【図12】「お店や工場，農家や漁師の仕事などの職業を見学したり体験したりする活動」の有無別にみた，学習に対する児童の意識



※「あてはまる」と回答した児童の割合

※ $\chi^2$ 検定の結果，7項目で有意差が見られた。「これからもっとたくさんことを学びたいと思う」( $\chi^2(1) = 19.679, p < .001$ )，「学校での勉強はふだんの生活を送るうえで役に立つと思う」( $\chi^2(1) = 25.876, p < .001$ )，「学校での勉強は将来の仕事の可能性を広げてくれると思う」( $\chi^2(1) = 36.540, p < .001$ )，「学校が楽しい」( $\chi^2(1) = 5.299, p < .05$ )，「授業がよくわかる」( $\chi^2(1) = 23.761, p < .001$ )，「家での学習に積極的に取り組んでいる」( $\chi^2(1) = 16.516, p < .001$ )，「授業や学校行事以外で学校の活動に積極的に取り組んでいる」( $\chi^2(1) = 22.441, p < .001$ )

【図 13】「お店や工場，農家や漁師の仕事などの職業を見学したり体験したりする活動」の有無別にみた，基礎的・汎用的能力に対する児童の意識



※ 「いつもそうしている」と回答した児童の割合

※  $\chi^2$  検定の結果，9項目で有意差が見られた。「誰かの話を聞く時は，その人の考えを受け止めようとしている」( $\chi^2(1) = 44.181, p < .001$ )，「自分の考えを話す時は，相手が理解しやすいように伝えている」( $\chi^2(1) = 12.537, p < .001$ )，「誰かと力を合わせないといけない時は，その誰かと役割分担をして取り組んでいる」( $\chi^2(1) = 8.229, p < .01$ )，「自分の長所や短所などについて分かっている」( $\chi^2(1) = 16.382, p < .001$ )，「やる気が出ない時でも，やるべきことはきちんとやる」( $\chi^2(1) = 11.258, p < .01$ )，「苦手なことをしないといけない時でも，進んで取り組んでいる」( $\chi^2(1) = 5.114, p < .05$ )，「何か問題が起きた時，原因を考えて，解決するように工夫している」( $\chi^2(3) = 12.643, p < .001$ )，「何かをする時は，計画を立て，工夫しながら進めている」( $\chi^2(1) = 8.102, p < .01$ )，「学校で学んでいることと自分が大人になったときのこととのつながりを考えている」( $\chi^2(1) = 12.268, p < .001$ )

## ⑥今後の方向性

職業に関する体験活動に参加することにより、児童の学習意欲や基礎的・汎用的能力は向上する。「お店や工場、農家や漁師の仕事などの職業を見学したり体験したりする活動」をしたことのある児童は70.3%であるが\*<sup>3</sup>、この割合を今後もっと高めていくことが求められる。そのためには、学校としてのキャリア教育計画の中に職業に関する体験活動を明確に位置付け、可能ならば2日間以上の職場見学を実施することが望ましい。

さらには、体験の量だけでなく質にも目を向ける必要がある。キャリア教育の年間指導計画がある学校は50.5%であるが\*<sup>12</sup>、そのうち「キャリア教育に関わる体験活動（職場見学やボランティア活動、上級学校見学（訪問・体験）等）」が含まれている学校は51.5%（全体を母数にすると26.0%）にとどまる\*<sup>13</sup>。しかし、「何のための体験活動か」を計画段階で明確にして活動を実施することは、その効果を大きく左右する。「活動ありき」を回避するためにも、体験の目標を教員間及び児童と共有することが期待される。

事前・事後指導を更に充実させることも、質の改善に向けた課題である。「事業所や上級学校での体験活動にかかわる事前指導・事後指導」を企画・実施している学校は、全体の19.7%にすぎない\*<sup>14</sup>。しかし、事前の予習を通して児童が自らの視野を広げることによって、限られた時間での体験がより豊かなものになる。また、事後に活動成果を共有して自らの生き方と関連付けることで、それは「体験から得た学び」として定着する。

一方で、児童の学習時間や教員の労働時間は限られているため、職業に関する体験活動（校外での学び）を重視することは、それ以外（校内での学び）での職業に関する学習を後退させてしまう可能性がある。ここは、校外と校内を二項対立で捉えるのではなく、つなぐ視点に立つことが重要であろう。上述のように体験の量が教育効果に影響を与えているとはいえ、どの程度の時間数を充てられるかは学校の状況によっても異なる。したがって、各学校が両者のバランスを判断しつつ、校内で学習した知識や基礎的・汎用的能力を校外の体験において活用し、それらを更に高めることができるようカリキュラム・マネジメントを実現することが求められる。また、児童自身が校内外の学習のつながりを認識することも重要であり、「キャリア・パスポート」を用いて、体験で学習したことを日常の学びや自らの進路に結びつける活動の発展も期待される。

参考：第一次報告書における参照データ

* 1	P59	小学校・学校調査	問 5
* 2	P86	小学校・学級担任調査	問 6
* 3	P98	小学校・児童調査	問 6
* 4	P62	小学校・学校調査	問 6 ( 3 )
* 5	P99	小学校・児童調査	問 7
* 6	P60	小学校・学校調査	問 6 ( 1 )
* 7	P61	小学校・学校調査	問 6 ( 2 )
* 8	P87	小学校・学級担任調査	問 7
* 9	P74	小学校・学校調査	問 12 ( 1 )
* 10	P97	小学校・児童調査	問 5
* 11	P75	小学校・学校調査	問 12 ( 2 )
* 12	P57	小学校・学校調査	問 4 ( 2 ) A
* 13	P57	小学校・学校調査	問 4 ( 2 ) B
* 14	P73	小学校・学校調査	問 11